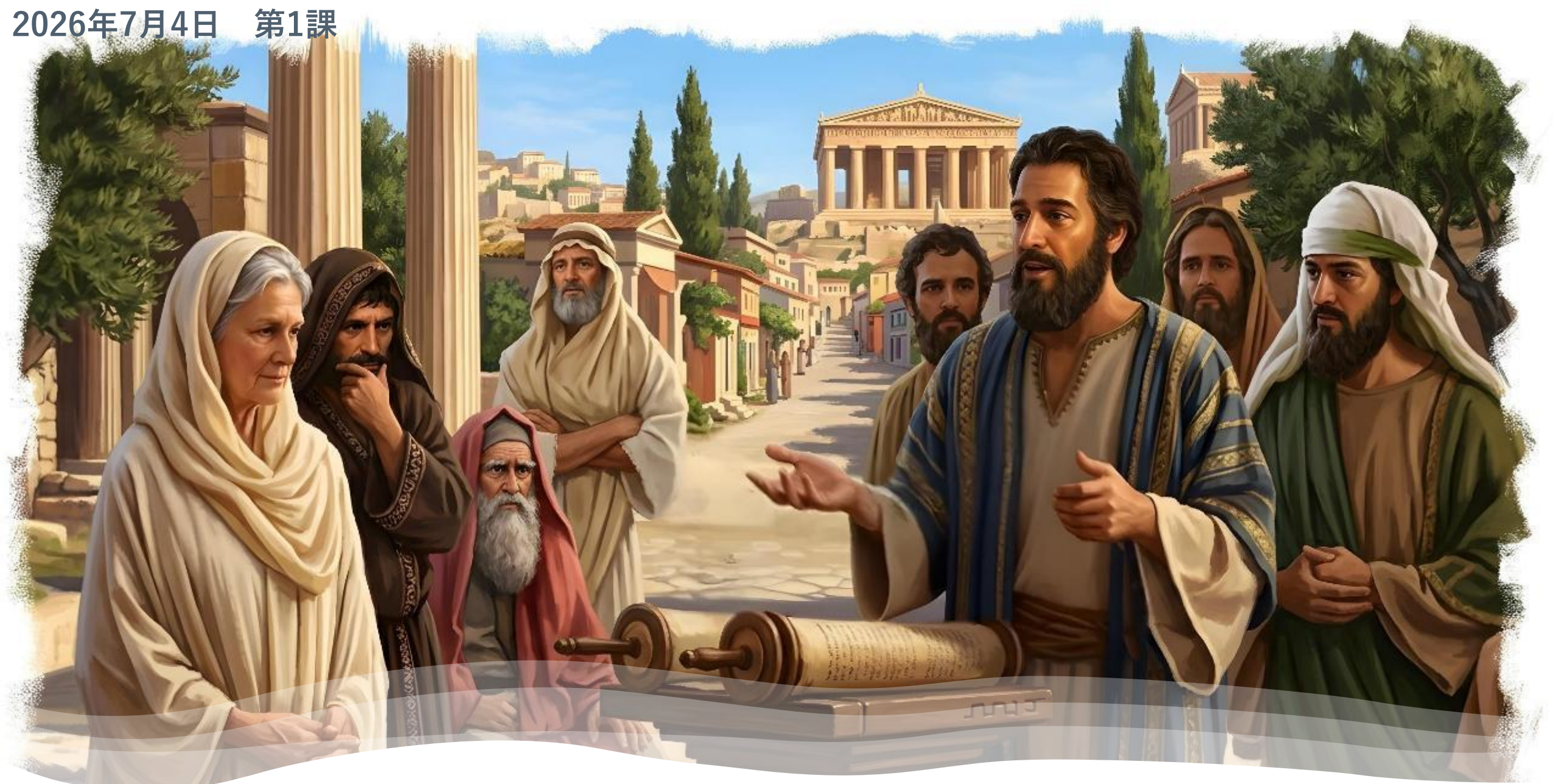




# コリントにおけるパウロの働き

すると、ある夜、  
幻のうちに主が  
パウロに言われた、  
「恐れるな。  
語りつづけよ、  
黙っているな。  
あなたには、  
わたしがついて  
いる。だれも  
あなたを襲って、  
危害を加える  
ようなことはない。  
この町には、  
わたしの民が  
大ぜいいる」。

(使徒行伝 18:9, 10,  
口語訳聖書)



ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。  
「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」。

(使徒行伝 18:9, 10,  
新共同訳聖書)



『ローマ人への手紙』に次いで、『コリント人への手紙』は、パウロが書いた手紙の中で最も長いものです。

現存する2通の手紙は、わずか数週間の間に書かれたものです。その中には、兄弟間の摩擦から生じる困難な状況を解決するための実践的な助言が記されています。

彼のメッセージを正しく理解するためには、まずそれが書かれた背景を知らなければなりません。



神に召されたイエスの使徒、パウロ

アテネからコリントへ

コリントの町

「コリントの多くの人々」

コリントの信徒へのパウロの手紙



# 神に召されたイエスの使徒、パウロ

「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ、」 (ガラテヤ 1:1)

イエスを選んだ12人のほか、聖書にはマティアス（使 1:26）、バルナバ（使 14:4）、ヤコブ、パウロ（1コリ 15:7-9）といった他の使徒たちについても言及されています。

パウロはどのようにして使徒になったのか？

イエスの選択によって (ガラ 1:1)

パウロはいつ選ばれたのか？

母の胎内にいるときから(ガラ 1:15)

パウロの正式な召しはいつ？

ダマスコへの道中(使 22:6-7)

パウロは誰のための使徒だったのか？

異邦人への (ガラ 2:9)



召命を受けたその瞬間から、パウロの人生はイエスを中心に回っていました。彼はイエスのことを考え、イエスのことを語り、すべての人にイエスを伝えました。

それゆえ、コリントに到着した当初から、イエスこそが彼らのメッセージの中心でした（1コリ 2：2）。

パウロは使徒として召されました。  
あなたはどんな召しを受けていますか。

それが自分の召しだと

どうしてわかるのでしょうか。

もし自分には召しがないと思うなら、  
今すぐ、神の御前に行き、あなたに任された  
働きを神が示してくださるよう、  
神に願ってみてはいかがでしょうか。

# アテネからコリントへ

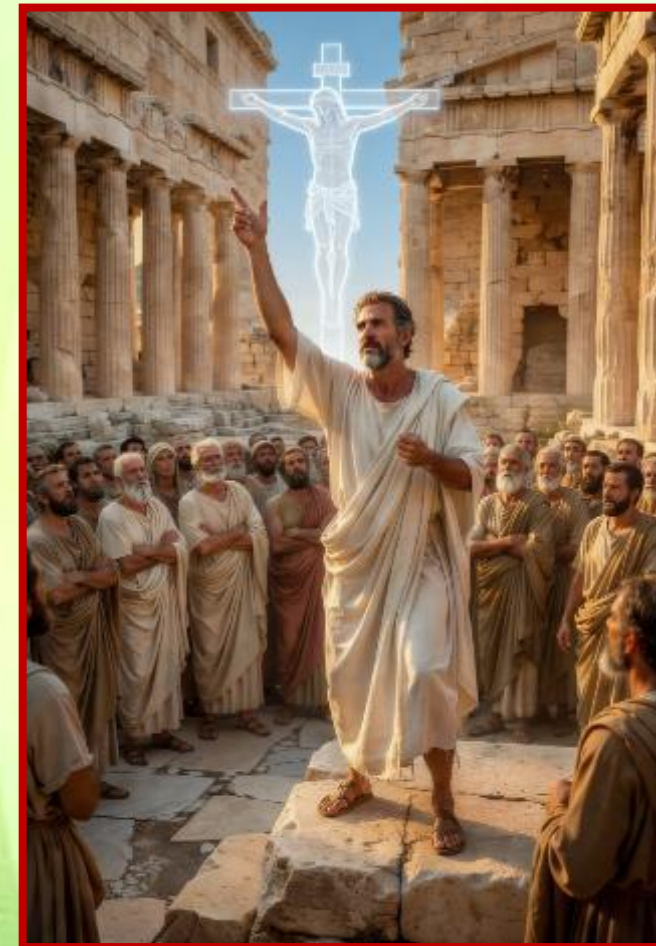
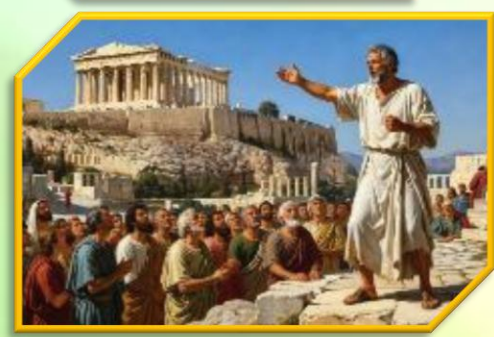
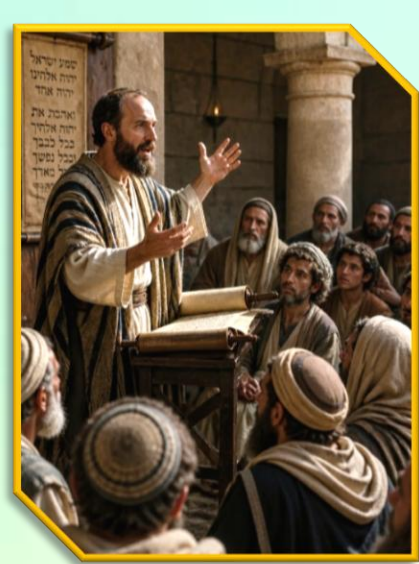
「その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。」(使徒行伝 18:1)

パウロは第2回伝道旅行の際、聖霊に促されてヨーロッパへ向かいました（使16:6-10）。そこで彼は、ピリピ（使16:12, 38-39）、テサロニケ（使17:1, 5, 9-10）、そしてベレア（使17:13-14）から追放されました。

アテネにおいて、彼は会堂でユダヤ人に、また市場で異邦人に説教した後、アレオパゴスで説教するよう求められました（使17:16-21）。雄弁な演説を行いました、イエスを受け入れたのはごくわずかでした（使17:34）。

パウロはアテネを離れてコリントへ行き、アクラとプリスキラに加わって、彼らと共に天幕作りの仕事をした。（使 18:1-3）

彼はいつものように、まず会堂でユダヤ人たちに、続いて異邦人たちに説教を始めた（使18:4-8）。コリント滞在中、またアテネでの「失望」を経験した後、パウロは人間の知恵を用いるのではなく、ただ「十字架につけられたイエス・キリスト」だけを宣べ伝えることにした（1コリ 2:2）。



アテネやコリントにおけるパウロの宣教活動から、  
私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

今日の私たちの町や地域社会において、  
福音を宣べ伝えることがこれほどまでに  
難しくなっているのはなぜでしょうか。

こうした困難な場所で、どうすれば福音を  
効果的に伝えることができるでしょうか。  
その最善の方法について、パウロの宣教活動から  
どのような戦略を学ぶことができるでしょうか。

# コリントの町

「・・・多くの神、多くの主があるようではあるが、」(1コリント 8:5b)

コリントは紀元前146年にローマによって徹底的に破壊されました。その後、紀元前46年にユリウス・カエサルが退役軍人や自由民からなる入植団を送り込み、紀元前44年には都市として完全に復興しました。パウロがこの地を訪れた頃には、すでに重要な商業の中心地でした。コリントの重要性は、コリント地峡（二つの海に挟まれた狭い陸地）というその立地にありました。同市は、コリント湾に面したレカイオンとサロニコス湾に面したケンクレアイという、2つの重要な商業港を擁していました。

事業を営んでいたおかげで、パウロは天幕作りをしながら働くことができた。しかし、コリントの富（アテネに匹敵するものであった）には、いくつかの弊害もあった。



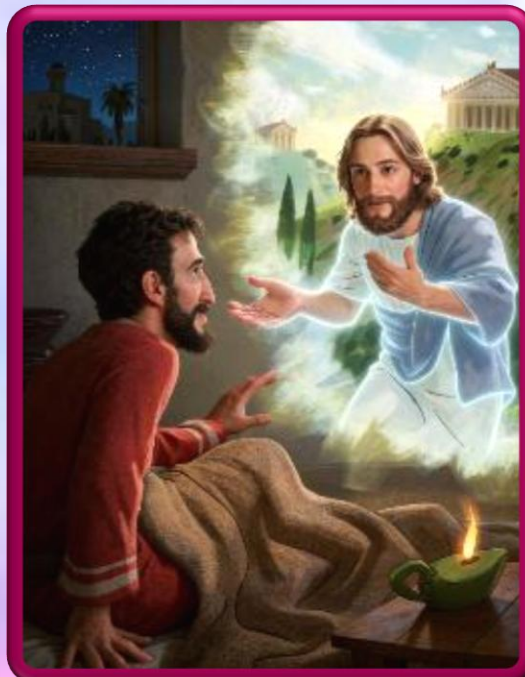
偶像崇拜と性的不品行が町に蔓延し、その文化の隅々にまで浸透していました。コリントの信徒に宛てたパウロのメッセージの多くは、教会内に忍び込んでいたこうした問題を一掃しようとするものでした。



コリントでの宣教活動において、  
パウロは偶像礼拝と放縦に満ちた  
社会という問題に直面しました。  
今日の文化において、福音を宣べ伝えることを  
困難にしている問題は何ですか。  
どうすればそれらを克服できますか。  
コリントと今日の町の間には、  
もし違いがあるとすれば、  
どれほどの違いがあるのでしょうか。

# 「コリントの多くの人々」

すると、ある夜、幻のうちに主がパウロに言われた、  
「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。(使徒行伝 18:9)



コリントのユダヤ人たちがそのメッセージを拒絶したため、パウロは会堂を離れ、会堂に隣接する家で異邦人たちと集まることになった（使18:4-7）。

「パウロはコリントでいくらかの成功をおさめたが、なおこの墮落した都市の邪悪さを見聞きして、ほとんど落胆しそうになった。異邦人の墮落ぶりを目撃し、ユダヤ人からは軽蔑と侮辱を受けて、彼は激しく苦悶した。そして、そこに見いだされる人材で教会を築こうとすることは知恵のないことではないかと、おぼつかない気持ちになった。」（EGホワイト 艱難から栄光へ 第24章）



その時、イエスは夜の幻の中でパウロに現れ、コリントの人々の間で働きを続けるよう励ますとともに、そのメッセージを受け入れる人々が数多くいることを保証された（使18:9-10）。

この幻に励まされ、パウロはコリントに1年半とどまった（使18:11）。やがて、ユダヤ人たちはパウロを法廷に引き出した（使18:12-13）。彼がコリントを去る頃には、大きな教会が築かれていた（使18:18）。



イザヤ**41:10**を読んでください。

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。  
たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け /  
わたしの救いの右の手であなたを支える。

この節で神はあなたにどのような素晴らしい  
約束をされていますか。

それらは今のあなたの人生に  
どんな希望を与えてくれますか。

# コリントの信徒へのパウロの手紙

わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。(1 コリント 1:11)

## 1 コリント 1-6章

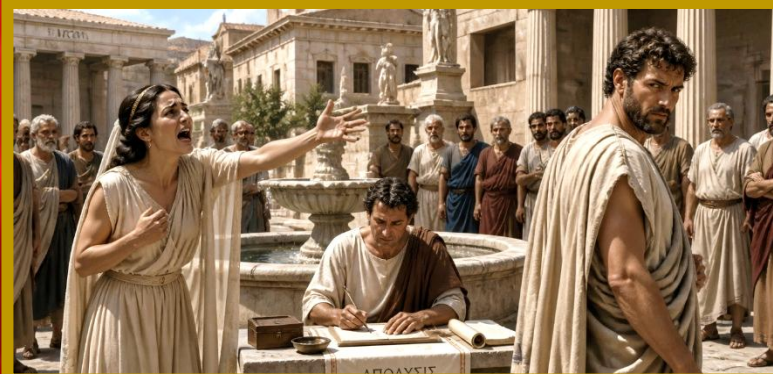
パウロはクロエから教会にいくつかの問題があることを知らされ、党派争い、性的不品行、争い、そして売春について彼らを戒めます。

## 1 コリント 7-16章

クロエの家族はまた、教会からのいくつかの質問が記された手紙をパウロに届けました。それらの質問は、結婚、離婚、独身、偶像に捧げられた食物、礼拝の際の振る舞い、霊の賜物の使い方、そして復活といった事柄に関するものでした。

## 2 コリント

これは現存する2番目の手紙ですが、パウロは他にもいくつかの手紙を書いていました（おそらく現存する2通より前、あるいはその2通の間の時期に）。彼は、コリントの信徒たちがいくつかの問題を解決したそのあり方を評価しつつも、周囲の文化の影響を避け、福音というレンズを通して世界を見るよう彼らに強く促しています。



## Ⅱ コリント 2:4 をもう一度読んでください。

わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。

この聖句は、パウロがこれらの人々を  
どれほど気にかけていたか、  
あなたにどのように伝えていますか。  
それに対して、あなたの心には他者への愛が  
どれほどあるでしょうか。

大都会における神の使命者たちは、救いのよきおとずれを伝える一方において、当面しなければならない罪惡、不正、墮落などについて失望してはならないのである。主は、罪惡に満ちたコリントにおいて使徒パウロにお与えになったのと同じ言葉をもって、こうしたすべての働き人を励まされるのである。「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついていく。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる」（使徒行伝18:9、10）。〔・・・〕暴力と犯罪に満ちたどの町においても、正しく教えられるならば、イエスの弟子になることができるものが多くいるのである。このようにして、幾千の人々に救いの真理が伝えられて、キリストを個人的救い主として受け入れるようになるのである。